

韓国の「'97国際環境フォーラム」に出席して

宮 永 信 幸 ・ 田 賀 幹 生

Impression on 「'97 International Forum of Environment」 in Korea

Nobuyuki Miyanaga, Mikio Taga

1 はじめに

平成9年5月29、30日の2日間の日程で、大韓民国の忠清南道大田広域市において開催された「'97国際環境フォーラム」に出席したので、その会議の内容を中心に報告する。

主催した忠清南道は、韓国の中央に位置し、古代東アジアの発展に寄与した百済王朝が栄えたところである。

開催地の大田広域市には、先端産業の研究施設や団地があり、韓国の科学の中心地といわれている。

会場は、その大田広域市の北部にあり、1993年に科学万博が開かれたエキスポ科学館であった。

参加者は、北東アジア地域の環境関連の専門家、自治体関係者の70名（招待者）と韓国の国、自治体の環境関連の関係者、環境関連大学の専門家、企業の関係者など230名の合わせて、約300名であった。

北東アジア地域から参加した自治体の国々は、大韓民国、中国、日本、ロシア、アメリカ、マレーシア、フィリピン、ドイツ、インド、パキスタン、バングラディシュ、モンゴル、ベトナム、オーストラリア、インドネシアの15カ国であった。

日本からの参加県は、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、鳥取県、兵庫県、京都府、福井県、石川県、富山県の13府県であった。

福井県からは、私と田賀（環境政策課）の2名が参加した。

2 「'97国際環境フォーラム」開催の趣旨

韓国の大田市で、「国際環境フォーラム」が開催された背景は、世界各国が地球的立場で環境問題に共同して取り組む地球サミットでの合意や、グローバル化・地方化という時代の流れの中で環境問題の解決のため、各地域の環境保全の取組み事例や情報交換など地方レベルの役割が重要視されるようになり、慶州と福岡で開かれた国際地方自治団体長会議で「国際環境フォーラム」の開催が提案されたことからである。

フォーラムの趣旨は、「人類の生存と環境保全のための地方からの新しい波」をテーマに、開発と保全のための環境政策やローカルアジェンダ21の効率的な実践案について討議したり、世界各地の事例発表を行って、地域の役割・協力について考えていくことであった。

3 環境フォーラムの討議内容について

基調講演、論文発表それぞれの部門で、次のような講演、発表があった。

(1) 基調講演

日本の名古屋大学の島津名誉教授

「自然と人間の共存のため、地球的に考え、足元からの行動」

韓国のソウル大学の Rhee, Jeong-Jeon 教授

「21世紀における環境問題と地方政府の役割」

(2) 論文発表

①第1課題の開発と環境保全の調和では、

Franzle, Otto 教授(ドイツ、Christian-Albrechts 大学)

「持続的可能な開発の理念に反映したエコロジーと経済手法との調和」

Cho, Ki Ho 教授(韓国、公州大学)

「韓国の自然公園の開発と保全」

②第2課題のローカルアジェンダ21では、

Shu Tao 教授(中国、北京大学)が、

「中国、天津市におけるアジェンダ21計画の取組み」

Lee, Jin Hong 教授(韓国、忠南大学)が

「ローカルアジェンダ21のためのアクションプラン—CO₂発生削減のための持続的可能な実践—」

(3) 事例発表については、テーマ別に3分科会に分れて行われた。

第1分科会 環境保全と開発

第2分科会 環境保護のための技術と対策

第3分科会 環境政策とシステム

各分科会での国別の発表事例を見ると、第1分科会では、ロシア(4事例)、日本(2)、中国(2)、韓国(1)、米国(1)、モンゴル(1)、バングラディシュ(1)の合計12事例が発表された。第2分科会では、日本(6)、韓国(5)、中国(1)、ベトナム(1)、オーストラリア(1)の合計14事例が発表された。第3分科会では、日本(5)、韓国(3)、中国(2)、ドイツ(1)、フィリピン(1)の合計12事例が発表された。

福井県は、第3分科会に出席し、「ローカルアジェンダ21；オゾン層保護をめざす地域からの取組み」と題して、本県のフロン回収取組みの現状を報告した。

ここでは、第3分科会の内容を中心に報告する。

日本や韓国から、環境基本計画についての事例が発表され、中国から、環境と経済の均衡ある開発についての発表があった。ドイツからは、1970年代に早くから、バイエルン州における環境対策の制度、組織を整備してきた取組みなどが報告された。このドイツの取組みについては、中国から大変参考になると評価されていた。

オゾン層保護に関する福井県の取組みは、具体的に分かりやすい事例であり、オゾン層保護という世界共通の環境問題を地域で取り上げていること、2年前の早くから、しかも資金負担をしていることから分科会議長コメントで高く評価された。

環境政策の成功には、地域の役割が重要であり、そのための制度の確立が大切であること。また、政策や計画を実行していくために、資金作り、住民の意識も大切であることも強調されていた。

分科会議長によって第3分科会として、次のように総括された。

- ・アジェンダ21の中に、各国の地方政府の役割が明記されている。地方別のアジェンダ21を作成し、実行すること。
- ・市民の意識改革が重要である。法律の改正や規制の強化が必要である。
- ・長期的なプログラムを提案し、その方向を市民に提示することが大切である。

(4) 総合討論

「地域の環境保全のための地方の役割と責任」を課題として、これまで討論してきた事項を中心に、各地域の環境政策と情報交換が行われ、自由討論がされた。

各国代表からは、次のような意見が出された。

富山県

中国、韓国、ロシア、日本が囲む北西太平洋は、沿岸周辺の経済発展とともに、その環境汚染が心配される。各地方政府の積極的役割と相互協力が重要である。富山県は、北東アジア地域の国際環境協力を提案しており、海洋汚染防止のための環日本海環境協力センターを設置した。1997年7月に、富山県で東アジア自治体サミットを開催予定なので、是非参加してほしい。

鹿児島県

環境教育が大変重要であることを強調したい。理論から行動に移るよう、次の世代の子供たちに環境について教えることが大切である。屋久島に環境文化研修センターがあり、人と生態系との係わり合いを学ぶことができる。CO₂削減はエネルギーとの関係で困難な問題であるが、その対策の手掛かりは、森林を作ることである。小さな働きの積み重ねが大きな力となる。

パキスタン

自分ですべてできることが重要であるが、先進国に支援を求めたい。

マレーシア

わが国は、産業が発展していないので公害が少なく、公害の深刻さを知らない。地域レベルで取り組むために、解決策を是非知りたい。

中国

中国の経済発展が早く、それとともに保護政策も実施している。先進国とともに、経済的、技術面で協力したい。1998年8月、北京でフォーラムを開催するので、是非参加してほしい。

ロシア

環境教育はとても大事である。子供、学生から大統領まで環境問題の教育が必要である。また、住民の協力が必要である。効果的教育のため、国際協力が必要。

アムール川の汚染対策のため、財政的支援が必要。

京都府

今年の12月に、地球温暖化対策のための国際会議を京都で開催するので、是非参加してほしい。

韓国

国連、国、地方レベルで環境問題の解決に努力している。力強く経済発展している北東アジアも貢献している。この会議も世界に情報発信している。

アジェンダ21を実現するには、組織と財政が必要である。世界には、富裕国と貧国がある。組織の無い国は、組織改変して環境部門を設置してはどうか。

または、すでにある部門、たとえば、交通、運輸部門で環境対策を図ってはどうか。

財政については、お金が無いからといって放置することはできない。各国間の協力体制が大切。

会議を通じ、改善のための事例、失敗の事例等を共有し、情報交換をしてはどうか。大きなテーマ、小さなテーマを討論し、その積み上げが大事である。

全体的な総合討論を終えるに当たり、フォーラム推進協議会委員長として次のように総括がなされた。

- ・みんなの新しい認識が重要。
- ・国間の情報、技術の交換。
- ・多くの国、地方政府、機関の共同協力が重要。

(5) 「97国際環境フォーラム」の宣言文について

2日間にわたる討論を通じて宣言文に合意し、各国代表、地方自治体代表が署名した。

4 国際環境フォーラムに出席しての印象

国際的な協調の下に、地球環境や地域環境問題等に取り組むために、環境分野の国際会議、フォーラムなどが多く開催されるようになり、地方自治体の職員が参加する機会が増えてきている。

地方自治体レベルの取り組み事例についての情報交換が行われ、国際協力の上でも、地方自治体の役割が大きな力になっていくような印象をうけた。